

第一條 控訴ハ治罪法中本按ノ裁判言渡前ニ許シタルモノト雖モ總テ本按ノ裁判言渡アリタル後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第二條 控訴ノ期限内ハ控訴ヲ爲サスシテ直チニ上告ヲ爲スコトヲ得但對手人控訴ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス

控訴ヲ爲サスシテ直チニ上告ヲ爲シタルトキハ原裁判言渡ニ對シ更ニ控訴ヲ爲スコトヲ得ス

第三條 被告人公訴ノ裁判言渡ニ對シ控訴ヲ爲サントスルトキハ裁判費用ノ保證トシテ金拾圓ヲ豫納スヘシ

第四條 被告人ニ於テ證人鑑定人ノ呼出ヲ請求スルトキ前條保證金ニテ不足ト認ムル場合ニ於テハ別段其費用ヲ豫納セシムヘシ

第五條 治安裁判所ニ於テ爲シタル輕罪ノ裁判言渡ニ對スル控訴ハ管轄輕罪裁判所ニ之ヲ爲スヘシ其控訴ヲ受ケタル裁判所ニ於テハ治罪法中輕罪ノ控訴ニ付キ定メタル規則ニ從ヒ之ヲ裁判スヘシ

右奉 勅旨布告候事

〔參照〕 治罪法第六十二條第三百六十五條乃至第三百七十一條第四百九條第四百十條

〔第九十五〕 十八年一月十四日司法省內訓同年一月八日神戸始審裁判所檢事請訓

刑事控訴期限ハ五日ナルニ付キ第二號布告御發令前刑ノ言渡ヲ受ケ五日ヲ經過セサルモノモ控訴スルコトヲ得ルヤ直ク御指揮ヲ仰ク 電報

內訓電報 一月八日付電報請訓ノ趣本年第二號布告施行前刑ノ言渡ヲ受ケタリト雖モ上告期限ヲ經過セサルモハ期限内ニ控訴スルヲ得ヘシ

〔第九十六〕 十七年四月十七日司法省內訓同年四月四日秋田始審裁判所檢事請訓  
茲ニ告訴ニ附帶シテ私訴ヲ爲シタル被告事件アリ裁判官其公訴ヲ裁判シタル後私訴ノ裁判ヲ爲スニ當リ檢察官ニ通報ヲ爲サハル故同官ノ立會ナクシテ私訴ノ裁判ヲ言渡シタリ此即チ治罪法第三十五條ノ法典ニ背キタルヲ以テ檢察官ニ於テ同法第三百六十五條第四項越權ノ處置アルヲ理由トシ控訴ヲ爲シ得ルハ勿論ト存候得共同法第三百六十五條第四項ハ刑ノ言渡ニ關シ越權等ノ處分アリタル場合ニ限り適用スヘキモノニシテ檢察官カ刑事附帶ノ私訴裁判言渡ニ對シ控訴スル如キハ本項ノ規定スル所ニアラスト云フ反對論者アリ聊カ疑義ニ涉リ乞御內訓候也

內訓 請訓ノ趣ハ後段解釋ノ通此旨及內訓候也

〔參照〕 治罪法第三百六十五條

○第二款 違警罪審判手續便宜取計裁判言渡ニ對シ上訴ヲ許サ、ル事及單行法律規則ニ於テ科料勾留ニ處スル者上告許否ノ事

〔第九十七〕 十四年九月廿日第四十四號布告

違警罪ノ審判ニ關スル一切ノ手續ハ治罪法ニ從フヘシト雖モ實際已ムヲ得サル場合ニ於テハ當分ノ内便宜取計ヲヒ其裁判言渡ニ付テハ總テ上訴ヲ許サス此旨布告候事



【第九十八】 十六年十二月廿一日司法省内訓同年十二月三日山形輕罪裁判所檢事請訓  
 違警罪上告ノ儀ニ付本年六月渡邊檢事長ヨリノ伺ニ對シ單行法律規則ニ依リ拘留科料ニ處  
 スル者ト雖モ本刑ノ長期多數輕罪ノ範圍内ニ在ルモノハ上告ヲ爲スコト得ヘシ但書ハ長短  
 多數數共全ク違警罪ノ範圍ニ在ルモノハ見込ノ通りト御内訓相成候處例ヘハ証券印稅規則  
 第四則第二條ニ該ルモノニシテ脫稅高壹錢ノ十倍若シクハ二十倍ノ科料金拾錢或ハ貳拾錢  
 ニ處スヘキモノナルトハ上告ヲ許サレサル儀ニ可有之哉又ハ其多數揭載ナキモ所犯ノ事實  
 ニ依リ數百圓ニ至ルモノニ付全違警罪ノ範圍内ニ在ラサルモノト解釋致シ可然哉此段仰御  
 内訓候也

内訓 請訓ノ趣前段見解之通但脫稅多額ニシテ貳圓以上ノ罰金ニ該ル可キ者ナルトハ上  
 告ヲ爲スコト得ヘシ

【參照】 以上治罪法第二十七條第二十八條第二百十條第二百十六條第二百十八條第四百  
 十條

○第三款 上告ニ依リ破毀セラレ乙裁判所ニ移サレタルトキ乙裁判所ニ於テ附帶ノ私  
 訴裁判及書類送致手續其被告ノ責付保釋消滅等ノ事

【第九十九】 十七年三月廿四日司法省内訓同年三月七日秋田始審裁判所檢事請訓  
 詐欺取財事件ニ付甲裁判所ニ於テ公訴私訴ヲ併セテ裁判ヲナシタル處被告ハ其裁判ニ不服  
 シテ上告ヲナシタリ然ルニ大審院ニ於テハ法律ニ依リ理由ヲ付セサリシハ不法ナリトシ其

全部ヲ破毀シ更ニ乙裁判所ニ移サレタルヲ以テ乙裁判所ハ本按詐欺取財事件ニ付テハ公訴  
 私訴併セテ適當ノ判決ヲナサハルヘカラサルハ論ヲ俟タサル義ト被相考如何トナレハ原裁  
 判ノ全部ヲ破毀セラレハ即原裁判ノ無効ニ屬スルヲ以テナリ然ルニ反對ノ論者アリ大審  
 院ニ於テ原裁判ノ全部ヲ破毀シタルハ刑事ノ公訴ニ對スル裁判ノミニシテ私訴ニ及サルモ  
 ノナレハ乙裁判所ハ刑事ノ公訴ニ對スル判決ヲ爲スニ止マリ私訴ノ裁判ヲ與フルノ限リニ  
 アラサル旨主張スト雖モ刑事ニ附帶シテ刑事裁判所ニ私訴ヲナシタル場合ハ即本按裁判ノ  
 無効ニ屬セハ隨テ從タル附帶ノ私訴モ効力ヲ失スルハ當然ナルヲ以テ乙裁判所ハ大審院ノ  
 破毀ニ係ル公訴私訴ヲ併セテ判決ヲナス至當ト存候得共爲念御内訓ヲ仰候也  
 但シ被告等カ上告ノ當時ハ殊更私訴ノ裁判ニ對シ何等申立サル義ニ付御參考迄申添候也  
 内訓 請訓ノ趣ハ乙裁判所ニ於テ更ニ私訴ノ裁判ヲ爲スニ及ハス此旨及内訓候也

【參照】 治罪法第四條第四百廿八條以下

【第二百一】 十七年五月十日司法省内訓同年四月十日岡山始審裁判所檢事請訓

第一條 甲裁判所ノ重罪公判ニ對シ上告ヲナシ大審院ニ於テ之ヲ破毀シ乙裁判所ニ移サレ  
 タル時ノ場合被告事件一切ノ書類ヲ送致スヘキ手續別段ノ正條ナキヲ以テ或ハ甲裁判所  
 ヨリ直チニ其移サレタル乙裁判所ノ管轄檢事長ヘ送致スルモアリ或ハ乙裁判所ノ檢事ヘ  
 被告人ト共ニ送致シ乙裁判所ノ檢事ニ於テ更ニ治罪法第二百六十條ノ例ニ原キ其控訴裁  
 判所檢事長ヘ送致スルモアリ其取扱區々ニ有之輕罪ニ於テハ原裁判所ヨリ直チニ其移サ  
 レタル裁判所ヘ送致スルヲ以テ例トナスモ重罪事件ニ於テハ必檢事長ヲ經サルヘカラサ



ルモノニ付何レノ手續ニ從フヘキヤ前説ノ如キハ其管轄ニアラサル裁判所ヨリ他ノ管轄ノ檢事長ヘ送致スルハ或ハ事ノ順序ヲ逐ハサルモノ、如シ然ラハ後説ノ手續ニ從フヲ以テ穩當トナス乎

右仰御内訓候也

内訓 請訓ノ趣第一條ハ甲裁判所檢察官ヨリ直ニ乙裁判所ヲ開ク可キ裁判所ノ檢察官ニ送致ス可シ

〔參照〕 治罪法第四百三條第四百廿八條第四百廿九條第四百三十一條第四百三十三條

〔第二百一〕 十七年五月十日司法省内訓同年四月十日岡山始審裁判所檢事請訓

第二條 輕罪事件上告中被告人ヲ保釋又ハ責付シタル場合破毀ノ上他ノ裁判所ニ移サレタルキハ其責付保釋ハ當然取消ヘタルモノトシ更ニ勾留ノ上一件書類ト共ニ送致スヘキモノナル哉

右仰御内訓候也

内訓 請訓ノ趣第二條原裁判所ニ於テ保釋責付ノ取消ヲ必要トスルキハ之ヲ取消スハ勿論ナレトモ當然取消シタル者ト爲スヲ得ス

〔參照〕 治罪法第二百十條以下第二百六十條第四百十五條

○第二十四章 哀訴期限起算及書類送致方并檢察官ニ於テ死者ニ對スル再審ノ訴ヲ爲ス事

〔第二百一〕 十六年十月九日司法省内訓同年九月廿六日京都始審裁判所檢事請訓

治罪法第四百三十七條ヲ按スルニ哀訴ヲ爲サントスル者ハ大審院ノ書記局ニ其申立ヲ爲スヘキヲ明瞭タリト雖モ哀訴者タルヤ罰金及ヒ拘留料ノ刑ニ處セラレタル者ヲ除クノ外多クハ收監シアルヲ以テ大審院所在ノ地ニ住セサル訴訟關係人ハ直ニ該院ノ書記局ニ之ヲ申立ツルヲ甚々難シトス而シテ茨城縣ノ伺ニ對スル明治十五年五月三十一日ノ御指令ニ依レハ在監ヨリ差出シタル哀訴狀ハ司獄官吏ヨリ其書類ヲ大審院書記局ヘ回送スヘキ旨趣ナルヲ以テ是ノ點ニ對シ聊疑訝ヲ生ス何トナレハ哀訴ノ申立書ヲ司獄官吏ヨリ大審院ヘ送付セハ原裁判所ノ檢察官ハ其哀訴アリシヲ覺擧セサルニヨリ法律上執行ヲ停止スヘキ日時即治罪法第四百二十八條ニ定メタル三日間ヲ經過スレハ刑ヲ執行スヘキ指揮書ヲ典獄ヘ發セサルヘカラス夫レ之ヲ發付スルモ哀訴アリタル上ハ實際執行ハ停止スヘキモノナルニ付既ニ發シタル指揮書ハ事實ニ抵觸スルヲ如何セン且不在監ノ訴訟關係人ニシテ哀訴ヲ爲サントセハ遠隔ノ地方ニ住スルモノト雖モ己レ自カラ大審院ニ出頭シ其書記局ヘ哀訴ノ申立ヲ爲スヘキ儀ニ之レアルヘシ然レハ其手續タルヤ頗ル迂遠ニ涉リ實際ニ徵シテハ施行シ難キ場合ナシト概言スヘカラス故ニ哀訴ニ關スルモノト雖モ其書類ノ遞送ハ渾テ原裁判所書記局ノ取扱ニ屬セシムル時ハ哀訴ノアリタルヲハ書記局ヨリ檢察官ニ通報スルハ難キニアラス加テ拘留不拘留人ノ區別ナク哀訴申立ノ手續ハ同一ニ期シ實際ニ於テモ其宜キヲ得法律ニ矛盾スル所ナシ因テ哀訴ニ關スル書類ノ遞送ハ原裁判所書記局ノ取扱ニ屬スヘキ儀ト相心得可然哉此段仰内訓候也



内訓 請訓之趣哀訴ハ本人ヨリ代言人ヲ差出スカ又ハ重罪事件ニ係リ大審院ヨリ其代  
人ヲ撰任セシ場合ニ非サレハ之ヲ爲ス可カラス但シ治罪法第四百三十八條ニ依リ大審  
院ノ言渡ハ三日間執行ヲ停止スヘキ者ナレハ其執行ヲ爲シ得ヘキニ至リ檢事長ヨリ執  
行ヲ命スヘキニ付原裁判所ノ檢察官ニ於テ哀訴アリシコトヲ知ラスシテ執行命令書ヲ發  
スルカ如キ場合ナカル可シ

【第二百三】 十六年十二月廿八日司法省指令同年十二月十七日京都府伺

刑ノ執行停止ノ儀ニ付本年九月廿六日京都府始審裁判所檢事請訓ニ對シ御訓示ノ次第モ有之  
候處右ニテハ當府ノ如キ大審院ト所在地ヲ異ニスル土地ニ在リテハ治罪法第四百三十八條  
ニアル處ノ三日間ハ右言渡書送達ノ時間中ニ已ニ經過シ被告人ニ送達スルヤ否直ニ刑ノ執  
行ヲセサルヲ得サルカ如キ場合アリテ甚タ不穩當ト相考候付テハ右御訓示ノ旨趣ハ大審院  
ノ言渡ノ原裁判所等ニ着シ之レヲ被告人ニ送達ナリシ翌日ヨリ三日間ヲ經テ刑ヲ執行スヘ  
キモノト相心得可然哉疑義ヲ生シ候ニ付何分ノ御指令相成度此段相伺候也

指令 伺ノ趣哀訴ハ大審院言渡ノ翌日ヨリ起算スヘキニ付本人ヨリ同院ヘ代言人ヲ差出  
シ置クカ又ハ重罪事件ニ係リ同院ヨリ其代言人ヲ撰任セシ場合ニ非サレハ之ヲ爲ス  
ヲ得サルモノトス

【參照】 治罪法第四百三十七條第四百三十八條

【第二百四】 十七年四月二十一日司法省内訓同年四月十五日大審院檢事長請訓

治罪法第四百四十條第五ニ於テ刑ノ言渡ヲ受ケタル者死去シタル時ハ其親屬ヨリ再審ノ訴

ヲナシ得ヘキ旨ヲ規定セラレ其第四百四十六條ニ於テハ死者ノ親屬ヨリ再審ノ訴ヲナシタ  
ル場合ニ於テ云々ト記載シアツテ檢察官ヨリ再審ノ訴ヲ起シタル場合ノ規定アルコトナケレ  
ハ該文面上ヨリ之レヲ見ルキハ死者ニ對スル再審ノ訴ハ其親屬ニ非サレハナシ得ヘカラサ  
ル者ノ如ク解釋セラレ候得共既ニ其親屬ニ於テ訴權ヲ有スル以上ハ檢察官ニ於テモ訴權ヲ  
有スルノ道理ナレハ聊カ疑義ニ涉リ相決シ兼候ニ付御内訓ヲ仰キ候也

【參照】 治罪法第四百四十條第四百四十五條

○第二十五章 裁判執行

○第一款 處刑宣告後犯人ヲ司獄官ヘ護送ノ際宣告書ノ謄本送致方及檢察官ニ於テ  
裁判所ノ命令及言渡ヲ執行スル手續ノ事

【第二百五】 十五年三月六日司法省丙第八號大審院裁判所警視廳府縣東京府ヘ達

處刑宣告ノ後犯人ヲ司獄官ヘ護送セシムル際ニ於テハ監獄則ニ從ヒ檢察官ヨリ右宣告書ノ  
謄本ヲ司獄官ヘ送達スル儀ト心得ヘシ此旨相達候事

【第二百六】 十五年二月十三日司法省丙第五號大審院裁判所警視廳府縣東京府ヘ達

檢察官ニ於テ裁判所ノ命令及ヒ言渡ノ執行ヲ指揮スルニ當リ其命令書若クハ言渡書ノ謄本  
ヲ要スル時ハ該書記局ニ於テ速ニ其謄本又ハ拔書ヲ作り交付ス可キ儀ト心得可シ此旨相達  
候事



參照 治罪法第四百六十二條

○第二款 罰金料裁判費用沒收物品徵收方及控訴ニ係ル裁判ヲ執行スル裁判所ノ事

【第二百七】 十四年十二月五日司法省丁第二十五號大審院裁判所へ達

治罪法第四百六十二條第二項罰金料裁判費用及沒收物品ノ徵收ハ書記局ニ於テ之ヲ擔當シ會計主任へ引渡ス儀ト可心得此旨相達候事

【第二百八】 十八年二月廿四日司法省指令同年一月廿七日松山始審裁判所檢事伺

本年第二號布告ヲ以テ輕罪ノ控訴ヲ許サレ隨テ同布告第三條第四條ニ規定セラル、豫納金ノ處措ヲ按スルニ當リ先ツ控訴ニ係ル裁判ノ執行ハ何レノ裁判所ニ於テナスヘキヤヲ決スルノ要アルヲ知レリ茲ニ至テ論議ニ派ニ出テ即甲論者ハ凡ソ刑ノ執行ハ治罪法第四百六十二條ニ定メラル、如ク原裁判所ノ檢察官又ハ大審院ヨリ命ヲ受ケタル裁判所ノ檢察官ノ指揮ニ因リ爲スヘキモノニシテ控訴裁判所ニ對スル原裁判所ハ即チ始審裁判所ナリ故ニ控訴裁判ノ執行ハ原裁判所即チ始審裁判所ニ於テナスヘキモノナリ然ラサレハ控訴ハ時アリテ原裁判ヲ認可スル場合アルノミナラス彼ノ豫納金ヲ收領スルハ無論原裁判所即チ始審裁判所タラサルヘカラス加之治罪法第四百六十二條ハ如何ナル時ト雖モ總テ刑ノ執行ヲナスヘキ場合ヲ定メラレタルモノニシテ汎キ意義ナルニ依リ特リ大審院ニ對スル原裁判所ニアラスニテ始審ノ控訴ニ於ルモ原裁判所即チ始審裁判所ニ於テ執行ヲナスヘキモノナリト乙論

者ハ之ニ反シ治罪法第四百六十二條ノ原裁判所トハ必竟大審院ニ對スル原裁判所ニシテ控訴裁判所モ亦同院ニ對シテハ即チ原裁判所ナリ何トナレハ控訴裁判ニ對シテ上告ヲナシ大審院ニ於テ棄却又ハ直ニ裁判ノアリシ時ハ控訴裁判所ニ於テ刑ノ執行ヲナスヘキハ勿論ナレハナリ本來刑ノ執行ヲ原裁判所ニ於テ爲スヲ必要ナリトセシ所以ノモノハ上告ノ際大審院ニ於テ棄却シ又ハ直ニ裁判アリシ時同院ニ於テ執行ノ煩ヲ取ラサルヲ要スレハナリ如何トナレハ上告ハ罰金ノ刑ヲ除ク外ハ悉ク被告人ヲ其院ニ送ラス只辯護人ヲ出スニ止マレハナリ之ニ反シテ控訴ハ必ス被告人ヲ其裁判所ニ護送シ事實ノ覆審ヲナスヘキニ依リ直ニ刑ノ執行ヲナスニモ毫モ差間ナキノミナラス却テ被告人ヲ送還スルノ勞費ナク將タ逃走ノ憂ナクシテ實際上大ニ便利ナリト云フヘシ彼ノ豫納金ノ如キハ只之ヲ郵送スルノ手數ヲ要スルノミ現ニ被告人ノ其地ニアリテ執行上更ニ支障ナキニモ拘ハラヌ故ヲ送還スル等甚タ迂濶ナル手續ヲナスカ如キノ比ニアラサルナリ加フルニ控訴裁判所ヨリ被告人ヲ原裁判所即チ始審裁判所へ送り還スカ如キハ路程ノ永遠行路ノ嶮難ナル場所ニ在テハ又一層ノ不便ヲ感スル所ナリ依テ控訴ニ係ル裁判ノ執行ハ大審院ノ裁判ト異ニシテ直ニ控訴裁判所ニ於テ執行スヘキモノナリト以上兩論ノ派ル、所ニ有之候處小官ハ全ク乙論者ノ説ト同一ノ意見ヲ持スルモノニシテ治罪法第四百六十二條ノ原裁判所トハ即チ大審院ニ對スル原裁判所ニシテ始審ノ控訴ニ於ルカ如キモノヲ指ス律意ニ非ストス法律ノ見解既ニ此ノ如シ實際上ノ便益モ亦前述ノ如ク然リ旁控訴裁判所ニ於テ直チニ執行スヘキモノト思量致候得共又治罪法第四百六十二條ハ實際ノ便否ニ拘ハラヌ所謂原裁判所トハ特リ大審院ニ對スル場合ナル



ノミナラヌ或ハ控訴裁判所ニ對スル場合ヲモ包含スルヤ

指令 伺ノ趣控訴ノ裁判言渡ヲ爲シタル裁判所ニ於テ執行スル儀ト心得可シ

參照 治罪法第四百六十二條

○第四編 雜件

○第一章 違警罪裁判過誤ニ出テ入ルニ失シタル時裁判改正及生年ヲ知テ生月ヲ知ラサル者年齢計算方價造金銀貨幣取扱規則ニ據リ截斷スヘキ金銀貨幣發見ノ時處分方并刑期限内死亡者葬式ノ事

第二百九 十六年十一月二日司法省指令同年十月廿九日神奈川縣伺

違警罪犯トシテ科料又ハ拘留ノ刑ニ處シタル者其裁判全ク過誤ニ出テ入ルニ失シタル事確然タル時ハ便宜ノ手續ヲ以テ前裁判ヲ改正致シ不苦候哉

指令 伺之通

第二百十 十六年八月廿二日太政官指令同年七月十三日海軍省伺

生年ヲ知テ生月ヲ知ラサル被告人年齢計算方ノ儀舊法ニ在テハ改定律例第九十三條ニ依リ生年ヲ以テ半年ニ計算致候得共新法ニハ右等ノ明文無之且ツ生月ヲ知ラサル者ハ其ノ六月前ニ出生セシヤ將タ七月以後ノ出生ナルヤモ知ルヘカラサルニ付舊法ノ如キ計算法ニシテハ被告人ニ於テ大ニ幸不幸ヲ來シ不都合ト被存候處地方法衙ニ於テハ生月ヲ知ラサル者ハ十二月ヲ以テ生月ト爲シ計算致候由右ハ算定方穩當哉ト存候條當軍衙ニ於テモ生年ヲ知テ

生月ヲ知ラサル者年齢ノ儀ハ十二月ヲ以生月ト定メ計算致度此段相伺候也

指令 伺之通

參照 刑法第七十九條以下第三百四十一條第三百四十二條第三百四十五條第三百四十六條乃至第二百五十三條

六條乃至第二百五十三條

第二百十一 十六年十月二十日司法省指令同年十月二日福井始審裁判所檢事伺

豫審公判檢事ノ搜查等ニ於テ贋造金銀貨幣取扱規則ニ依リ截斷ス可キ金銀貨幣ヲ發見シ法ノ沒收ニ係ラサル時ハ其旨ヲ以テ裁判所々在ノ警察署ニ引渡シ該貨幣ハ同署ノ處分ニ任セ可然哉

指令 伺之通

第二百十二 十七年一月十九日司法省指令十六年十二月廿八日德島縣伺

刑期々限内ニ死亡シタル囚徒ノ親族等ヨリ其遺骸ヲ請フニ依リ之ヲ下付致シ候上ハ式ヲ以テ葬儀執行候共不苦儀ニ候哉

指令 伺之通

○第二章 勳章年金恩給扶助料及褒章ヲ有スル者勅奏官華族有位者軍人並免許狀ヲ有スル者犯罪取扱方ノ事

スル者犯罪取扱方ノ事

○第一款 恩給扶助料ヲ有スル者公權剝奪及停止ノ處分ヲ爲シタル時取扱方ノ事

第二百十三 十六年四月二十七日司法省丁第十五號大審院裁判所へ達



明治八年第百四十八號公達海軍退隱令並ニ明治九年第九十九號公達陸軍恩給令ニ據リ恩給ヲ有スル元軍人及其扶助料ヲ有スル寡婦孤兒罪ヲ犯シ公權剝奪若クハ停止ノ處分ヲ受ケ並ニ該恩給ヲ有スル軍人ニシテ治罪法第二百七十三條ニ據リ公權停止ノ處分ヲ受ケタル者アルハ其都度直ニ大藏省ヘ通知可致此旨相達候事

但新法實施已後は迄本文ノ處分ヲ受ケタル者有之候ハ、其旨直ニ大藏省ヘ通知可致事

【第二百十四】 十六年五月二十八日內務省乙第二十六號府縣ヘ達

陸軍恩給令並海軍退隱令ニ據リ恩給ヲ有スル者及其扶助料ヲ有スル寡婦孤兒罪ヲ犯シ公權剝奪若クハ停止ノ處分ヲ受ケタル者アルハ其旨速ニ該管廳ヘモ報告可致此旨相達候事

但明治八年第百四十八號公達ニヨリ扶助料ヲ受ケタル者モ本文全條可相心得事

【第二百十五】 十八年一月六日司法省丁第一號大審院裁判所ヘ達

自今官吏及ヒ陸海軍恩給令ニ據リ恩給ヲ有スル者罪ヲ犯シ公權剝奪若クハ停止ノ處分ヲ爲シ又ハ扶助料ヲ受ケタル者罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ニ處シタル時ハ直ニ其宣告文寫書ヲ添當省ヘ可届出此旨相達候事

但本文中明治十六年當省丁第二十五號達ニ據テ可届出事件ニ係ル時ハ其旨ヲ明記シ宣告文寫書ハ二通可差出儀ト心得可シ

【第二百十六】 十八年二月二十一日司法省丁第六號大審院裁判所ヘ達

明治十六年九當省丁第二十五號達自今廢止候條此旨相達候事

但該達廢止ニ付テハ本年一當省丁第一號達中但書ハ消滅セシ儀ト心得可シ

【參照】 以上刑法第三十一條乃至第三十三條治罪法第二百七十三條

○第二款 勳章年金褫奪停止取扱方ノ事

【第二百十七】 十六年六月廿九日第二十二號布告

勳章ヲ有スル者其榮譽ヲ汚辱スルノ所爲アル時ハ勳章及年金ヲ褫奪ス外國勳章ハ其佩用免許狀ヲ沒收ス

勳章ヲ有スル者重罪輕罪ノ訴ヲ受ケ拘留若クハ保釋責付セラレタル時ハ勳章ヲ佩用スルコトヲ得ヌ又之ニ屬スル禮遇特權及年金ヲ受ルコトヲ得ヌ

右奉 勅旨布告候事

【第二百十八】 十六年九月十三日第三十九號官省院廳府縣ヘ達

本年六月二十二號布告ノ旨ニ依リ勳章年金褫奪及停止取扱手續左ノ通相定候條此旨相達候事

勳章年金褫奪及停止取扱手續

第一條 勳章ヲ有スル者左ノ項目ニ觸ル、トキハ榮譽ヲ汚辱シタル者トス

第一項 重罪輕罪ノ刑ニ該ル者

但輕禁錮以下ノ刑ニ該ル者ハ其所犯ノ情狀ニヨル

第二項 懲戒例及免職條例ニヨリ免官シタル者



第三項 素行修マラス帶勳者タルノ面目ヲ汚ス者

第二條 勳章ヲ有スル者ニハ先ツ其勳章勳記年金票佩用免許狀ヲ褫奪シタル後處刑言渡ヲ爲スモノトス

第三條 第一條第一項ニ觸ル、者アルトキハ裁判管轄長官ヨリ司法卿又ハ陸海軍卿ヲ經由シテ其罪狀及刑名ヲ賞勳局總裁ヘ具申スヘシ

第四條 第一條第二項第三項ニ觸ル、者アルトキハ所轄長官又ハ地方官ヨリ其情狀ヲ賞勳局總裁ヘ具申スヘシ

第五條 賞勳局總裁ハ其具狀ヲ審査シ重禁錮以上ノ刑ニ該ル者ハ直ニ上奏シ其輕禁錮以下ノ刑又ハ第一條第二項第三項ニ觸ル、者ハ議定官ノ會議ニ依テ其褫奪ノ當否ヲ論定シ褫奪スヘキ者ハ奏請ス

第六條 褫奪ノ裁可アリタルトキハ賞勳局總裁ハ褫奪狀ヲ作り褫奪ノ具申ヲ爲シタル長官ヲ經由シテ本人ヘ傳達セシム

第七條 勳位進級セシ者ナルトキハ前級ノ勳章勳記ヲモ褫奪スヘシ年金票モ亦同シ

第八條 褫奪シタル勳章勳記年金票佩用免許狀ハ褫奪ヲ行ヒタル官廳ヨリ賞勳局ヘ還納スヘシ

第九條 勳章ヲ有スル者重罪輕罪ノ訴ヲ受ケ拘留セラレタルトキハ其年月日及ヒ事由ヲ裁判管轄長官ヨリ司法卿又ハ陸海軍卿ヲ經由シテ賞勳局總裁ヘ具申スヘシ

但公訴權消滅スルカ若クハ放免ノ言渡ヲ爲シタルトキハ亦之ヲ申告スヘシ

第二百十九 十六年十月二十四日太政官指令同年九月廿七日陸軍省伺

今般達第三十九號ヲ以テ勳章年金褫奪及ヒ停止取扱手續御達相成候處其以前ニ於テ輕重禁錮ノ刑ヲ受ケ候者有之右ハ本年第二十二號御布告後ニ係ルト雖モ第三十九號御達以前ナルヲ以テ勿論該手續ニ準據スヘカラサル義ト相心得可然哉此段相同候也

指令 伺ノ趣本年第二十二號布告發布後ハ第三十九號達ニ據リ處分スル義ト可相心得事  
第二百二十 十七年一月十二日司法省丁第一號大審院裁判所ヘ達

勳章年金褫奪及停止取扱手續ノ儀ニ付太政官ヨリ左ノ通被達候條此旨相達候事  
司法省

別紙陸軍省伺勳章年金褫奪及停止取扱手續ノ儀朱書ノ通及指令候條此旨相達候事

明治十六年十二月廿八日  
別紙

勳章年金褫奪及停止取扱手續之儀ニ付伺

先般勳章年金褫奪及ヒ停止取扱手續御達相成候處其以前即チ本年第二十二號御布告後第三十九號御達迄之間ニ於テ右ニ適該スル者アルモ勿論該手續ニ準據ス可カラサル儀ト相心得可然哉之旨伺出候處右ハ本年第二十二號布告發布後ハ第三十九號達ニ據リ處分スル儀ト可相心得旨御指令之趣敬承仕候然ルニ該手續第二條ニ據レハ勳章褫奪シタル後處刑言渡ヲ爲スモノト有之候處右第二十二號御布告後第三十九號御達迄之間ニ於テ已ニ輕重禁錮ノ處分

第廿二號布告  
第二百十七ニ  
出ス



ヲ受ケ又ハ巳ニ其刑滿期後之者ト有之右等ハ如何ノ手續キヲ以テ褫奪方取扱可然哉至急何  
分ノ御指揮相成度此段更ニ相伺候也

明治十六年十一月十五日

陸軍卿 大山 巖

太政大臣三條實美殿

(朱書)

伺ノ趣本年第二十二號布告後第三十九號達發表以前ニアツテ既ニ刑ノ言渡ヲナシ未タ勳  
章褫奪ノ手續ヲナサ、ルモハ該達第三條ノ手續ニヨリ更ニ其罪狀及刑名ヲ賞勳局總裁  
ヘ具申スヘキ儀ト可相心得事

明治十六年十二月廿八日

參照 以上刑法第三十一條乃至第三十四條

○第三款 勅奏官華族有位帶勳者教導職軍人犯罪取扱方及處刑後處分方ノ事

第二百廿二 十五年三月廿七日司法省丙第十一號大審院裁判所警視廳府縣東京府ヘ達  
今般太政官ヨリ別紙ノ通御達相成候條此旨相達候事

別紙

司 法 省

勅任官禁錮ノ刑ニ該ルヘキ罪ヲ犯シ及ヒ奏任官華族帶勳有位ノ者禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキ  
罪ヲ犯シタル時ハ當該檢察官ヨリ司法卿ニ具狀シ司法卿其事由ヲ奏聞シテ處分スヘシ但現

行犯罪ニ係ル者ハ處分シテ後ニ奏聞スルヲ得此旨相達候事

明治十五年三月二十二日

太政大臣三條實美

第二百廿二 十五年三月六日司法省丙第九號大審院裁判所府縣東京府ヘ達

帶勳者罪ヲ犯シ公權ヲ剝奪又ハ停止スルノ言渡アリタルトハ其罪狀并刑名宣告文ノ寫ヲ以  
テ當省ヘ可届出此旨相達候事

但剝奪公權ノ者ハ勳記勳章并年金票共收奪ノ上當省ヘ差出スヘク候事

第二百廿三 十六年五月十四日司法省丙第二號大審院裁判所警視廳府縣東京府ヘ達

勅奏官華族并ニ有位帶勳者犯罪取扱方ノ儀ニ付別紙ノ通り太政官ヘ相伺候處朱書ノ通御指  
令相成候條爲心得此旨相達候事

但御指令文中十五年三月二十二日附御達ハ同年當省丙第十一號達ト可相心得事

勅奏官華族等犯罪取扱方ノ儀伺

勅任官禁錮ノ刑ニ該ルヘキ罪ヲ犯シ及ヒ奏任官華族帶勳有位ノ者禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキ  
犯罪取扱方ノ儀ニ付テハ明治十五年三月二十二日附ヲ以テ御達有之候處其罰金ニ處スヘキ  
モノト雖モ或ハ本人ヲ出廷セシムル場合モ有之且又拘留ノ刑ニ處シ及ヒ罰金科料ヲ納完セ  
サル節ハ則換刑シテ輕禁錮又ハ拘留ニ處スヘキ儀モ有之候條右本人ヲ出廷セシムル場合及  
ヒ換刑シテ輕禁錮又ハ拘留ノ刑ニ處スヘキ時ハ矢張其時々奏聞可致儀ト相心得可然哉此段  
相伺候也

明治十六年三月三十一日

司法卿大木喬任



太政大臣三條實美殿

朱書

伺之通 但十五年三月二十二日附其省へ達中帶勳有位者トアルハ勳六等以上從六位以上ヲ指シタル儼ト可相心得事

明治十六年五月八日

第二百廿四 十六年十一月八日司法省丁第三十二號大審院裁判所へ達

華族ノ輩位記ノ有無且戸主隠居子第ニ拘ハラズ罪ヲ犯シ拘留シタル時ハ自今其院裁判所ヨリ直ニ宮内省へ通牒シ猶刑ノ言渡ヲ爲シタル時ハ其宣告書ノ謄本ヲ添へ是亦同様速ニ可致通牒此旨相達候事

參照 以上刑法第廿四條第三十條第三十二條第三十三條第三十七條第四十二條治罪法第百十八條以下

第二百廿五 十五年四月廿六日內務省戊第二號神道副總裁神佛各管長へ達

教導職ノ中犯罪處刑ノ者有之節ハ裁判宣告書寫取添速ニ當省へ可申出此旨相達候事但試補ニシテ公權停止以上ノ處斷ヲ受ケ候者有之候ハ直ニ差免シ其旨届出ヘシ

參照 刑法第廿四條第三十三條

第二百廿六 十六年八月七日司法省丙第六號府縣東京府ヲ除クへ達

陸軍常備下士卒服役中ノ者違警罪ヲ犯シ其處分ヲ爲シタル節ハ其人名罰科ヲ詳記シ其都度本人所管(附ナレハ該隊長)へ速ニ通報可致此旨相達候事

十七年第十九號布達ヲ以テ教導職ヲ廢ス同第六十八號ヲ以テ從前當職タリシ者身分ハ舊ニ依ル旨ヲ達ス

○第四款 西洋形船々長運轉手機關手免狀并褒章ヲ有スル者及醫師犯罪取扱方ノ事

第二百廿七 十六年七月五日司法省丁第二十一號大審院裁判所へ達

明治十四年十二月第七十五號公布西洋形船船長運轉手機關手免狀規則ニ據リ免狀ヲ有スル者罪ヲ犯シ輕罪以上ノ刑ニ處シタル節ハ刑名並ニ宣告ノ月日ヲ詳記シ其都度直ニ農商務省へ通牒スヘシ此旨相達候事

第二百廿八 十五年八月廿一日司法省丁第四十二號大審院裁判所へ達

本年八月第三十九號公布ニ依リ今般內務省ヨリ照會ノ都合モ有之候ニ付テハ自今醫師タル者醫業ニ關スル犯罪有之致處斷候節ハ其都度該宣告文謄本相添內務省へ通知候様可致此旨相達候事

第二百廿九 十六年十二月廿八日司法省丁第三十九號大審院裁判所へ達

本年第三十五號布告ヲ以テ明治十五年第三十九號布告被廢候ニ付同年當省丁第四十二號達ハ自然消滅ノ處今般內務卿ヨリ更ニ照會ノ趣モ有之候條同省へ通牒方從前ノ通り可取計此旨相達候事

第二百三十 十五年四月十七日司法省丙第十六號大審院裁判所府縣東京府ヲ除クへ達

褒章條例第四條ニ依リ褒賞ヲ沒收スヘキ場合ニ於テハ本年三月當省丙第九號達ニ照準シ處分スヘシ此旨相達候事

○第三章 書記局其他訟廷等ノ掌務心得書及使了規則

第四編 第二章 第四款 ○第三章

丙第九號達ハ二百廿二ニ出ス



第二百三十一 十四年十月二十日司法省丁第十八號大審院裁判所へ達  
書記局其他訟廷等ノ掌務心得書別紙ノ通相達候事

十五年丁第五  
改正

(別紙) 書記局其他訟廷等ノ掌務心得書

第一條 書記局諸般ノ事務ハ各員輪轉之ヲ執リ豫メ其主掌ヲ定メス

第二條 訟廷ノ取締被告人扣所ノ看守ハ巡查獄卒等ヲシテ之ヲ掌ラシムヘシ

第三條 訴訟口詰ハ雇員ヲ以テ之ニ充テ訴訟人呼入其他訟廷ニ關スル雜事ノ使用ハ小使ヲ以テ之ニ充ツヘシ

第四條 門候ヲ置クト否トハ其廳ノ便宜ニ任ヌ若シ之ヲ置クトキハ雇員又ハ小使ヲ以テ之ヲ掌ラシムヘシ

但東京各裁判所ハ此限ニアラス

第五條 宿直ハ等外吏員雇員等ニテ之ヲ務メシメ在宅當番退廳後ハ判任官ニテ順次之ヲ務メシムヘシ

但東京各裁判所ハ此限ニ在ラス

第二百三十二 十五年十月二十五日司法省丁第五十五號大審院裁判所へ達

明治十四年十月當省丁第十八號達書記局其他訟廷等ノ掌務心得書第一條左ノ通改正候條此旨相達候事

第一條 書記局諸般ノ事務ハ豫メ其主掌ヲ定メ或ハ之ヲ定メサル等實際ノ便宜ニ從フ  
第二百三十三 十四年十二月五日司法省丁第廿六號大審院裁判所へ達

使丁規則別冊之通相定候條明治十五年一月一日ヨリ施行スヘク此旨相達候事

(別紙) 使丁規則

第一條 各裁判所書記局ハ刑事民事ニ關スル召喚狀其他書類ヲ送達セシムル爲メ其請負人ヲ定メ之ヲ使丁取締トス

使丁取締ハ一人トス但場所ニ因リ二人以上ヲ命スルコトアル可シ

第二條 使丁ハ使丁取締之ヲ撰ヒ其氏名ヲ書記局ニ届出鑑札ヲ受ルモノトス

使丁ノ人員ハ使丁取締適宜之ヲ定メ書記局ノ許可ヲ受ク可シ

第三條 使丁取締ハ送達ノ事ニ付總テ其責ニ任スルモノトス

第四條 使丁取締ハ常ニ裁判所ニ在テ送達ノ事ヲ取扱フ可シ

第五條 使丁ハ送達ヲ爲ヌ時裁判所ノ鑑札ヲ帶行ヌ可シ

第六條 送達ヲ爲ヌニハ其法律規則ニ從フ可シ

第七條 使丁取締及ヒ使丁ハ訴訟ニ付代人トナリテ訟廷ニ出ルコトヲ許サス

第八條 送達ノ事ニ關シ他人ニ損害ヲ被ラシメタル時ハ使丁取締其償ヲ擔當スヘシ

但使丁ノ過失懈怠ニ由ル時ハ使丁取締ハ之ニ對シ更ニ其償ヲ求ムルコトヲ得

第九條 送達賃錢ハ書類ノ大小ニ拘ハラヌ一通ニ付一里五錢以下トス

賃錢ノ定限ハ使丁取締之ヲ申立書記局之ヲ決シ且送達書ニ其賃錢高ヲ附記ヌ可シ

第十條 賃錢ノ定限ハ其取扱所ニ貼示シ三日以上新聞紙ニ掲載シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ公告ヌ可シ

十五年丁第三  
十四號達ヲ以  
テ改正



第十一條 刑事ニ付テノ送達賃錢ハ其送達ヲ受ルモノヨリ之ヲ拂置ク可シ  
但左ノ場合ニ於テハ書記局ヨリ之ヲ拂置ク可シ

一 檢察官又ハ裁判官ヨリ呼出ス証人鑑定人通事ノ呼出狀

二 檢察官ノ控訴申立ヲ被告人ヘノ通知及ヒ呼出狀

三 檢察官ヨリ被告人ヘ送達スル上告申立書及ヒ趣意書

第十二條

刑事附帶ノ私訴及ヒ民事ニ付テノ送達賃錢ハ總テ其送達ヲ請求スル者ヨリ之ヲ拂フ可シ

第十三條 送達賃錢ニ付テノ訴訟ハ其書類ヲ發シタル裁判所ニ之ヲ爲ス可シ

第十四條 使丁取締ハ書類送達ヲ正實ニ取扱フ可キ旨ノ書面ヲ書記局ニ差出ス可シ

十五年四月丁第九號ヲ以テ違約金納付方ヲ違

第十五條 使丁取締及ヒ使丁此規則ニ違背シタル時裁判所書記局ハ使丁取締ニ左ノ條件中ニテ相當ノ言渡ヲ爲スヘシ

一 二十圓以下ノ違約金ヲ納メシムルコト

二 解職セシムルコト

三 事情重キ者ハ違約金ヲ納メ解職セシムルコト

第十六條 使丁取締タルニハ其裁判所々在地ニ家屋ヲ有シ滿二十一歳以上ノ者ニシテ書記局ノ試験ヲ經ルコトヲ要ス

使丁取締タルニハ身元保証トシテ金五十圓以上ノ價格アル公債証書地券又ハ銀行其他官許アル株券證書ヲ書記局ニ納ム可シ

但此保証金ハ解職ノ時下戻ス可シ

第十七條 試験ハ書記二名以上ニテ之ヲ爲ス可シ

但書記不足ナルトキハ雇ヲ以テ之ニ充ツヘシ

試験ノ科目ハ左ノ如シ

一 使丁規則

二 請負郡村ノ地名又ハ里數

三 普通書簡ノ書讀

第十八條 實決ノ刑ニ處セラレタル者及ヒ身代限ノ處分ヲ受ケ未タ辨償ヲ終ラサル者ハ使丁取締又ハ使丁タルコトヲ許サス

丁取締又ハ使丁タルコトヲ許サス

第二百二十四 十五年六月廿六日司法省丁第三十四號大審院裁判所ヘ達

明治十四年丁第二十六號ヲ以テ相違置候使丁規則第九條并ニ第十一條左ノ通改正候條此旨

相違候事

第九條 送達賃錢ハ地方ノ便否ニ從ヒ書記局ニ於テ適宜其定限ヲ立ツ可シ

但シ送達書ニ賃錢ノ高ヲ附記ス可シ

第十一條 刑事ニ付テノ送達賃錢ハ其送達ヲ受ル者ヨリ之ヲ拂フ可シ

参照 治罪法第二條第百三十一條

○第四章 諸表



○第一款 治罪法表式既決未決事件表及既決犯罪表

〔第二百二十五〕 十四年十二月十九日司法省丙第十九號警視廳府縣東京府へ達

警察署ニ於テ審判シタル違警罪事件表并既決犯罪表別紙様式ニ照準シテ調成ス可シ尤違警罪事件表ハ治罪法第五十二條ニ從ヒ差出ス儀ト可心得此旨相達候事

別紙

〔 〕ノ内朱字

〔治罪法第五十二條違警罪事件表式〕

用紙美濃ノ類

明治何年何月中何警察署(警察分署)違警罪既決未決事件表

件數	總數		既		濟	
	違警罪	受新	受無罪	免訴	刑罰ノ管轄違棄却消滅願下	未濟

何月何日調

檢察官

官氏名印

何月何日閱

署長

官氏名印

〔檢察官意見アルルハ表末ニ記載ス可シ但長文ニ涉ルルハ別紙ニ記スルモ可ナリ左ニ一二ノ文例ヲ示ス〕

〔犯罪事件前表ニ比スレハ若干ノ増加アルハ近來管内ニ某事業興起シタルニ因リ人口幅輳スルニ原由セリト思考ス〕

〔又ハ犯罪事件斯ク増加スト雖モ過半ハ何々ノ一ニ關スル犯罪ナルヲ以テ久シカラスシテ常ニ復ス可シト思考ス〕

〔又ハ何月以來未決事件ノ増加セシハ係リ官員疾病或ハ何々ニ因リ何月以來事務ヲ執ル一能ハサルニ由ル〕

〔又ハ事件ノ減少スルハ何々ニ原由セリ因テ久シカラスシテ増加ヲ見ルニ至ル可シト思考ス〕

〔署長意見アラハ亦前文ニ準ス〕

〔治罪法第四百六十四條既決犯罪表式〕

何警察(警察分署)既決犯罪表				〔伊藤某〕	
氏名	年	職	住	所	何府何郡何町
〔何々〕	〔何年何月〕	〔何々〕	〔何々〕	〔何々〕	〔何府何郡何町〕



[號]		出生ノ地	本籍	罪名	刑名	犯數	裁判言渡ノ年月日	對審闕席區別
		[同上]	[同上]	[竊盜]	[重禁錮何年(或ハ何月)]	[初犯(或ハ再犯)]	[何年何月何日]	[對審裁判(或ハ闕席裁判)]

此表一葉一人ヲ記載シ(イロハ)ノ順序ヲ以テ氏名ヲ區別シテ編綴シ探討ニ便ニス可シ  
表中ノ朱書ハ記載ノ一例ヲ示スモノナレハ(ロ)以下モ之ニ準ス可シ

〔參照〕 治罪法第五十二條第四百六十四條

〔第二百三十六〕 十四年十二月十九日司法省丁第三十四號大審院裁判所へ達

治罪法第五十二條第六十八條第七十六條第八十二條第四百六十四條表式別紙之通相定候條  
右ニ照準シテ調成ス可シ此旨相達候事

但明治十年丙第十七號違犯罪未決件數表丁第六十二號違犯罪糾問表ハ來十五年一月一日  
ヨリ廢止候事

別紙

〔 〕ノ内ハ朱字

〔第壹號〕 治罪法第五十二條違警罪事件表式

用紙美濃ノ類

明治何年何月中何違警罪裁判所違警罪既決未決事件表

件數	違警罪		既	濟	未濟
	舊受新受無罪免訴刑言渡ノ管轄違棄却消滅願下	總數			
何月何日調	檢察官 官氏名印				
何月何日閱	所長 官氏名印				

〔檢察官意見アルキハ表末ニ記載ス可シ但シ長文ニ涉ルキハ別紙ニ記スルモ可ナリ左ニ一ニ二ノ文例ヲ示ス〕  
〔犯罪事件前表ニ比スレハ若干ノ増加アルハ近來管内ニ某事業興起シタルニ因リ人口輻輳スルニ原由セリト思考ス〕  
〔又ハ犯罪事件斯ク増加スト雖モ過半ハ何々ノ一ニ關スル犯罪ナルヲ以テ久シカラスシテ常ニ復ス可シト思考ス〕  
〔又ハ何月以來未決事件ノ増加セシハ係リ官員疾病或ハ何々ニ因リ何月以來事務ヲ執ル一能ハサルニ由ル〕







一月以上									
二月未滿									
合計									

何月何日調  
 檢事 官氏名印  
 所長 官氏名印

此表未済人員ノ現在ヲ以テ記ス可シ例ヘハ先ニ拘留スト雖モ現ニ收監ナレハ現ニ收監シタル日數ヲ以テ記スルカ如シ但不入監トハ收監拘留保釋責付ヲ爲サ、ル人員ヲ云フ  
 〔第四號 治罪法第六十二條輕罪事件表式〕

明治何年 自何月 至何月 何輕罪裁判所輕罪既決未決事件表

輕罪	總數	既	濟	未	會議局 件數	上數ノ内	總
	上數ノ内						
舊受新受	豫審 ヲ經 タル モノ	刑ノ 管轄	棄却 消滅 願下	濟	舊受 新受	判決 判決	訴控 ノテ
	無罪 免訴	刑ノ 管轄	棄却 消滅 願下	濟	舊受 新受	判決 判決	訴控 ノテ
	モノ モシ モノ	刑ノ 管轄	棄却 消滅 願下	濟	舊受 新受	判決 判決	訴控 ノテ

件數

既濟未	十日未滿								
十日以上									
一月未滿									
一月以上									
二月未滿									

何月何日調  
 檢事 官氏名印  
 所長 官氏名印

〔檢事及ヒ所長意見ヲ記載スルハ違警罪表式ニ準ス〕  
 治安裁判所ニ於テ輕罪裁判所ヲ開キタルハ本表ニ準シテ調成シ其所轄控訴裁判所檢事  
 長ニ差出ス可シ豫審モ之ニ準ス  
 〔第五號 治罪法第六十八條輕罪控訴事件表式〕

明治何年 自何月 至何月 何控訴裁判所輕罪控訴既決未決事件表

原裁判所	總件數	既	濟	未	會議局 件數	上數ノ内	總
	件數						
舊受新受	全原 異原 並罪 所 移ス	棄却 消滅 願下	濟	未	舊受 新受	判決 判決	訴告 ノ上
舊受新受	全原 異原 並罪 所 移ス	棄却 消滅 願下	濟	未	舊受 新受	判決 判決	訴告 ノ上







〔檢事長及ヒ所長意見ヲ記載スルハ違警罪表式ニ準ス〕  
〔第七號 治罪法第八十二條大審院既決未決事件表式〕

明治何年 自何月何月 大審院既決未決事件表ノ一上告

原裁判所	總件數		上數ノ内		既		濟	
	舊受	新受	上告	非常上告	破毀	棄却消滅願下	濟	未濟
合計								
既濟未濟日數	十日以下	十日以上一月未満						

二月以上  
二月未満

何月何日 調  
何月何日 閱

檢事長 官氏名印  
院長 官氏名印

〔檢事長及ヒ院長意見ヲ記載スルハ違警罪表式ニ準ス〕  
〔第八號 治罪法第八十二條大審院既決未決事件表式〕

明治何年 自何月何月 大審院既決未決事件表ノ二哀訴再審或ハ移スノ訴

事件	總件數		上數ノ内		既		濟	
	舊受	新受	檢察官ヨリ	刑ノ官ニ及ヒテ其ノモノ及ヒヨリ	破毀	棄却消滅願下	濟	未濟
哀訴								
再審ノ訴								
裁判管轄ヲ定ルノ訴								
裁判管轄ヲ移スノ訴								



合計	十日未滿	十日以上	一月未滿	一月以上	二月未滿
既濟未濟 日數					

何月何日調  
何月何日閱

檢事長官氏名印  
院長官氏名印

〔檢事及ヒ院長意見ヲ記載スルハ違警罪表式ニ準ス〕  
大審院ノ表式ハ分テ第一第二トス第一ハ上告ヲ記シ第二ハ哀訴再審ノ訴裁判管轄ヲ定ムルノ訴裁判管轄ヲ移スノ訴ヲ記ス  
〔第九號 治罪法第四百六十四條既決犯罪表式〕

何裁判所既決犯罪表

氏名	〔伊藤某〕
年齢	〔何年何月〕
職業	〔何々〕
住所	〔何縣何郡何村〕

出生ノ所	〔同上〕
本籍	〔同上〕
罪名	〔竊盜〕
刑名	〔重禁錮何年或ハ何月〕
犯數	〔初犯(或ハ再犯)〕
裁判言渡ノ年月日	〔何年何月何日〕
對審關席區別	〔對審裁判(或ハ關席裁判)〕

此表一葉一人ヲ記載シ(イロハ)ノ順序ヲ以テ氏名ヲ區別シテ編綴シ探討ニ便ニス可シ  
表中ノ朱書ハ記載ノ一例ヲ示スモノナレハ(ロ)以下モ之ニ準ス可シ治罪法第四百六十五  
條ニ從ヒ本省ニ送致スルニハ一月分ヲ編綴シテ一冊トナシ毎翌月十五日迄ニ差立可シ

參照 治罪法第五十二條第六十二條第六十八條第七十六條第八十二條第四百六十四條  
第二百三十七 十四年十二月十九日司法省丙第拾八號府縣へ達

刑事裁判ノ宣告犯人本貫へ通知ノ儀裁判所へ別紙丁第三拾三號ノ通相達候條此旨爲心得相  
違候事

第二百三十八 十四年十二月十九日司法省丁第三拾三號裁判所へ達

刑事裁判言渡ヲ犯人ノ本籍へ通知シ及ヒ犯人前科取調ノ儀是迄區々相成居候處來明治十五  
年一月ヨリ左ノ通可相心得此旨相違候事







何裁判所既決犯罪表

伊藤某

氏名	伊藤某					
年齢	〔何年何月〕					
職業	〔何々〕					
任所	〔何府何郡何町〕					
出生ノ地	〔同上〕					
本籍	〔同上〕					
罪名	〔竊盜〕					
刑名	〔重禁錮何年(或ハ何月)〕					

〔號〕		犯數
裁判言渡ヲ爲シタル年月日	對審關席區別	〔初犯(或ハ再犯)〕 〔何年何月何日〕 〔對審裁判(或ハ關席裁判)〕

イ號

此表治罪法第四百六十四條ニ依リ裁判言渡確定シ又ハ關席裁判アリタル時其言渡ヲ爲シタル裁判所ノ書記之ヲ作ルモノトス但一葉一入ヲ記載シ(イロハ)ノ順序ヲ以テ氏名ヲ區別シテ之ヲ編綴シ探討ニ便ス可シ  
表中ノ朱書ハ記載ノ一例ヲ示スモノナレハ(ロ)以下モ之ニ準ス可シ

參照 治罪法第四百六十四條

〔第二百二十九〕 十五年一月十七日司法省丁第八號大審院裁判所へ達

明治十四年丁第三拾四號達治罪法表式第四號輕罪既決未決事件表裏面治安裁判所ニ於テ輕罪裁判所ヲ開キタルルハ云々トアルヲ左ノ如ク改正シ及ヒ左ノ表式ヲ增補候條此旨相達候事

治安裁判所ニ於テ輕罪裁判所ヲ開キタルルハ本表ニ準シ其裁判所々在ノ警部之ヲ調成シ管轄ノ輕罪裁判所檢事へ差出シ輕罪裁判所檢事ハ之ヲ取纏メ左ノ表式ニ準シテ更ニ調成シ管







參照 治罪法第六十二條

第二百四十二 十五年十二月六日司法省丁第五十八號大審院裁判所へ達  
昨年丁第三十三及三十四號達ニ係ル既決犯罪表中刑名及犯數ノ兩條別紙之書例追加候條右  
ニ準シ記載スヘシ此旨相達候事

(別紙) 丁第三十三及三十四號達中既決犯罪表書例追加

一 刑名ノ條ヲ記スルニ假令ハ重禁錮何年監視何月(自首若クハ酌量)又ハ(再犯若クハ刑法何ニ據リ何等減)ノ如ク加減或ハ再犯加重ニ係ル者ハ必ス之ヲ附記スヘシ若シ無罪及免訴ニ係ル者アル時ハ証憑不充分ニ付無罪又ハ期滿免除確定裁判ヲ經ルニ付免訴ト書スルカ如ク無罪ノ事由并ニ治罪法第二百二十四條第三以下各項ノ事由ヲ簡明ニ附記スヘシ

一 犯數ノ條ハ(舊法ニ據リ處斷何度)ト區別記載スヘシ(新法ニ據リ處斷何度)

參照 治罪法第二百二十四條第四百六十二條

第二百四十三 十六年三月十九日司法省丁第十三號裁判所へ達

始審裁判所ニ於テ重罪裁判所ヲ開クトキノ手續等ニ付本年一月第七拾貳號ヲ以テ内訓ニ及置候處其重罪事件表ニ係ル事實ノ探討若クハ此ニ關スル景況ノ通報等ハ右始審裁判所檢事ヲシテ其取調ヲ爲サシムルモ總テ是迄ノ通治罪法第七十六條并明治十四年當省丁第三十四號達ニ據リ控訴裁判所檢事長ニ於テ之ヲ調成シ差出スヘキ事ト心得ヘシ爲念此旨相達候事

第二百四十四 十五年六月十六日司法省丙第二十三號裁判所警視廳府縣(東京府)ヲ除クへ達

昨十四年丙第拾九號丁第三拾四號達中自今違警罪事件表ハ三通ヲ差出シ輕罪裁判所檢事ハ其一通ヲ備置ニ通ヲ差出シ控訴裁判所檢事長ハ又其一通ヲ備置豫審及輕罪事件表ハ二通ヲ差出シ控訴裁判所檢事長ハ亦其一通ヲ備置各一通ヲ本省へ差出ス可シ此旨相達候事

參照 治罪法第五十二條第六十二條

第二百四十五 十六年十二月廿二日司法省丁第三十七號大審院裁判所へ達

明治十四年當省丁第三十四號達治罪法表式第二號豫審既決未決事件表裏面記載例第二項左ノ通改正候條自今右ニ準シ調成スヘシ此旨相達候事

既濟未濟日數二月以上ノ者アラハ二月以上三月未滿三月以上六月未滿六月以上一年未滿ト記スヘシ其一年以上ニ及フ者ハ一年毎ニ區別シテ記入シ未濟三月以上ニ及フ者ハ其理由ヲ説明スヘキ者トス以下各表之ニ準ス但豫審中止ノ分ハ其總件數ヲ記スルニ止マリ中止日數ヲ區別記入スルニ及ハス

參照 治罪法第六十二條

第二百四十六 十八年二月二十六日司法省丁第八號裁判所へ達

自今輕罪ニ係ル控訴事件ニ付テハ明治十四年十二月當省丁第三十四號達ニ據リ既未決事件表ヲ調成差出スヘキ儀ト心得ヘシ但輕罪裁判所ニ於テ受ケタル控訴事件モ同様ニ該表ヲ調成シ他ノ事件表ト共ニ二箇月毎ニ取纏メ差出スヘシ此旨相達候事

參照 治罪法第六十八條



○第二款 違警罪公判表

第二百四十七 十五年一月十六日司法省丙第一號警視廳府縣東京府へ達  
今般刑法治罪法實施ニ付テハ今後刑事裁判統計表之材料ニ供候間別紙表式及書例ニ準シ每  
年一月一日ヨリ十二月三十一日マテニ違警罪事件ヲ記載シ翌年二月マテニ取纏メ差出ス可  
ク候條此段相違候事

別紙

違警罪裁判所

公判第一表 此表ハ違警罪ノ公判ニ係ル件  
數及人員ヲ記載スル者トス

第一欄

此欄ニハ刑法第四百二十五條以下ノ各項ニ從テ犯罪ノ性質ヲ詳カニ記載スル者トス此他各  
地方ノ便宜ニヨリ定ムル所ノ違警罪モ亦實際ノ罪狀ヲ詳明ニ記載スルコトヲ要ス以下各表中  
犯罪ノ性質ヲ記ヌヘキ欄ハ皆之ニ倣フヘシ

但初メニ男ノ罪狀ヲ條列シ次ニ女ノ罪狀ニ及フヘシ

第二欄

此欄ニハ表目ノ如ク一項ニ前年ヨリ越高ノ件數アレハ之ヲ記シ本年受理ノ件中一節ハ治罪  
法第二百二十一條ノ一項ニ係ル者ニシテ二節以下ハ同條二項ヲ區分シテ記載スル者ナリ

第三欄

此欄ニハ前年ノ殘件中ノ人員ト本年受理中ノ人員トヲ區分記載スヘシ

第四欄

此欄ニハ對審ト缺席裁判トノ人員ヲ區分記載スヘシ

第五欄

此欄ニモ亦書例ヲ舉ル如ク裁判言渡ニ從テ被告人員ヲ記載スヘシ

違警罪裁判所

公判第二表 此表ハ訟庭内ニ於テ犯セシ違警罪ノ公判  
ニ係ル件數及ヒ人員ヲ記載スル者トス

此表ハ第二欄ノ二項ヲ除ク外總テ第一表ノ例ニ依ルヘシ

別號第一表 此表ハ科料言渡及裁判費用ニ  
係ル總數ヲ記載スル者トス

此表ノ書例ハ既ニ各條ニ付テ説明スルカ如シ但證人等ノ科料言渡ヲ取消シタル者ハ其人員  
及金額ヲ記スルニ及ハス

別號第二表 此表ハ囑託ヲ受ケシ總數ヲ舉テ  
其執行時間ヲ區分スル者トス

第一欄

此欄ハ既ニ書例ヲ舉ル如シ然レモ若シ三月以上ニ至ル者アル時ハ其箇條ヲ附加スヘシ

第二欄以下

第二欄ニハ前年ノ殘件ト本年ノ新件トヲ區分シテ總件數ヲ舉ル者トス但本表欄外既ニ説明











科料ヲ拘留ニ換ヘシ人員  
拘留 二日 人員  
全 一日 人員  
計

前條ノ外左ノ各件アレハ其人員及金額ヲ記スヘシ  
裁判費用  
被告人員  
賦課金額

右給與ノ條ハ官ニテ擔當セシ金額ヲ掲載スヘシ  
証人人員  
給與金額

右証人ノ外裁判ノ費用ニ係ル者アレハ其名稱ヲ掲テ人員及金額ヲ條列スヘシ

何違警罪裁判所

別號第二表

此表ハ囑託ニ係ル總件數ヲ掲ケ兼テ執行時間ヲ示ス者トス此時  
間ハ囑託ヲ警日ヨリ執行若クハ十二月三十一日マテノ期限ナリ

(陸六寸二分  
横三寸)

囑託執行時間	囑託件數			執行行件數	十二月三十 一日取調中
	前年ノ件	本年ノ件	計		
十日以下					
十一日至二十日					
二十一日至三十日					
一月以上					
三月以上					
計					

第二百四十八

十五年一月廿七日司法省丙第二號警視廳府縣東京府ヲ除クヘ達

本年丙第一號ヲ以テ相違候違警罪各表式ノ欄外ニ何違警罪裁判所ト記載アリト雖當分ノ内  
左ノ書例ニ據リ記スル者ト可心得此旨相違候事

違警罪公判表欄外ノ廳名ハ姑ク左ノ例ニ據ルヘシ

何府縣

何警察署



























欄以下ハ表目ノ如ク既決棄却消滅未決中止ノ件數人員ヲ掲クヘシ  
取扱時間ハ起訴ヨリ起算シ既決ハ處分ノ當日未決中止ハ其年末迄ヲ通算シ其取扱ノ長短ヲ  
示スモノトス

豫審處分第二表

本表ハ被告人ノ處遇區別ヲ示スモノニシテ毎項ニ起訴ヨリ終結又ハ其年末迄ノ處遇シタル  
人員ヲ列記スヘシ  
本表ハ實際處遇シタル人員ヲ掲クヘキモノナルニ付醫ヘハ被告一人ニシテ起訴ノ當時ハ之  
ヲ拘留シ次ニ入監シ次ニ保釋若クハ實付セシ類ト雖モ毎項ニ其數ヲ記入スヘシ故ニ自然重  
複數ヲ生シ第一表ノ總數ニ比スレハ多少超過スヘシ但シ曾テ入監セシ被告人ニシテ更ニ之  
ヲ實付シ又入監セシメシ等ノ場合アルニ於テハ再度同様ノ處遇ヲ爲スト雖モ一項内ニシテ  
重複數ヲ掲ク可ラス  
保釋ハ其請求ニ於テ自己ヨリセシト他人ヨリセシトノ區別ニ依リ允許セシ人員ヲ掲ケ拘束  
セサル者ノ項ニハ曾テ拘留若シクハ收監等ノ處遇ヲ受ケサル人員ヲ記スヘシ  
保釋ノ申立ヲ棄却シタル項ニ於テハ被告人自己ヨリセシト他人ヨリセシトヲ問ハス保釋ヲ  
請求セシモ之ヲ允許セシテ棄却シタル人員ヲ掲載ス可シ  
取消ノ項ニ於テハ前項ニ於テ保釋ノ請求ヲ允許シ又ハ實付セシ者ノ中ニテ更ニ之ヲ取消シ  
タル人員ヲ掲載スヘシ  
故障事件第一表

管轄邊ノ申立ヲ棄却シタルニ付	前年	本年	計	件數	前年	本年	計	人員	認 可 取 消	リヨ官察檢	リヨ人告原事民	リヨ人告被	計	合 件 人 件 人 件 人	棄 却 消 滅 未 決
	年	年								年	年	リヨ官察檢	リヨ人告原事民		
法律ニ背キ令狀ヲ發シタルニ付															
法律ニ背キ令狀ヲ發セサルニ付															
法律ニ背キ保釋實付ヲ爲シタルニ付															
法律ニ背キ保釋實付ヲ爲ササルニ付															
越權ノ處分アリタルニ付															
忌避ノ申立ヲ棄却シタルニ付															
計															

縦七寸四分 横三寸五分







件數人員ヲ掲載スヘシ

第六欄 此欄ニハ故障申立中被告人ノ死亡等ニ因リ消滅ニ歸セシ件數人員ヲ掲載スヘシ  
第七欄 此欄ニハ其年末ニ於テ判決ニ至ラス取調中ニ係ル件數人員ヲ掲載スヘシ

故障事件表第二表

本表ハ豫審終結ニ對スル故障ノ各件ヲ示スモノトス

第一欄 此欄ニハ豫審終結ニ對シ檢察官民事原告人又ハ被告人ヨリ申立シ故障ノ趣意ヲ治罪法各條ノ順序ニ因リ條列提記スヘシ

第二欄 第三欄 第四欄 此數欄ハ第一表ノ第二欄第三欄第四欄ノ書例ニ同シ

第五欄 此欄ニハ上欄ノ取消ニ係ル件ニシテ會議局ニ於テ更ニ言渡ヲナシタル人員ヲ言渡區分ニ依リ掲載スヘシ

第六欄 第七欄 第八欄 此數欄ニハ第一表ノ第五欄第六欄第七欄ノ書例ニ同シ

○第四款 刑事統計表ノ材料ニ供スル重輕罪公判特赦表式

第二百五十六 十五年五月十八日司法省丁第三十一號大審院裁判所へ達

明治十一年丁第二十及二十一二十二號達中刑事訴訟表雜形並記載例ヲ廢シ更ニ別冊之通刑事裁判統計材料表式并書例相定候條本年分ヨリ右ニ準シ其廳ニ於テ取扱タル事件ヲ記載シ翌年三月限り差出スヘシ此旨相達候事  
但大審院各表ハ裁判所ニ附セス

治安裁判所ニ於テ輕罪各表ヲ調成シタル時ハ所轄ノ始審裁判所ニ於テ之ヲ取纏メ共ニ差出スヘシ(別冊略)

第二百五十七 十五年五月十八日司法省丁第三十二號大審院裁判所へ達

明治十一年丙第十一號達相廢シ更ニ別冊之通刑事裁判統計材料中特赦表式並書例相定候條本年分ヨリ右ニ準シ特赦事件ハ監獄長ヨリ申立シ者ニ至ル迄總テ調成シ翌年三月マテニ差出スヘシ此旨相達候事(別冊略)

第二百五十八 十五年七月十一日司法省丁第三十七號裁判所へ達

本年五月丁第三十號<sup>號</sup>ヲ以相達候諸表野紙ハ本省ニ於テ摺立相渡候條紙數取調請求方第九局へ可申出候事

但本文紙數ニ對スル費用ハ其廳經費ヲ以支拂候儀ト可心得

第二百五十九 十五年九月一日司法省丁第四十五號裁判所へ達

重罪ト雖モ法律上ノ減輕ニ因リ輕罪以下ノ刑ニ處スヘキ者ハ輕罪裁判所ノ管轄ニ屬スル儀ニ候處右ハ輕罪公判各表ニ據リ難キ場合アルヲ以テ此類ニ限リ重罪公判各表ノ例ニ準シ編成シ輕罪各表ト共ニ差出ス儀ト心得ヘシ此旨相達候事

第二百六十 十五年十二月八日司法省丁第六十號裁判所へ達

本年五月丁第三十一號ヲ以テ相達候刑事裁判統計表式ノ内重輕罪公判表式ニ係ル別號第二及三表附帶私訴表會議局故障事件表ノ外公判各表ハ照查ノ都合有之ニ付各廳ニ於テ調成スルニ及ス候尤右表式中重輕罪登記簿ノ別紙登記簿徵集箇條書ノ順序期限等ニ據リ逐次ニ



取調差出ス可シ此旨相達候事(別紙略)

【第二百六十一】十五年十二月八日司法省丁第六十一號裁判所へ達

本年六月太政官ヨリ第三十九號ヲ以テ御達シアリタル如ク統計材料計査ノ忽セニス可ラサルハ固ヨリ言ヲ待タス今般丁第六十號達ヲ以テ裁判所ヨリ重輕罪登記簿ヲ徵集スル旨趣モ亦裁判統計材料點檢ノ方法ヲシテ益精覈ナラシムルニ在ルナリ抑材料各條記載ノ明晰ニシテ事實ノ正確ナルハ各廳表紀擔任者ノ勤勞ニ因ラサル可カラス然モ各條採録ノ際裁判官若クハ檢察官ニ就キ其事由ノ探討ヲ要スル事アルヘシ故ニ其各員ニ於テモ亦表紀擔任者ヨリ質問スルニ方リ正實ニ應答スルハ勿論ナリト雖モ尙ホ一層鄭重ニ注意致スヘシ此旨相達候事

○第五款 集會條例新聞條例及新聞記事演說ヨリ起ル犯者表

【第二百六十二】十五年三月廿九日司法省丁第十九號大審院裁判所へ達

明治十一年當省丁第二十七號達新聞條例及讒謗律犯者表雖形別紙之通改正候條右ニ照準年兩度ニ取調前季自一月至六月分ハ七月十五日限後季自七月至十二月分ハ翌年一月十五日限可差出尤犯者無之向ハ其段可届出此旨相達候事

但治安裁判所ノ分ハ始審廳へ取纏メ可差出事

別紙

凡例

- 一本表ハ集會條例新聞條例ヲ以テ處斷シ及ヒ新聞紙雜誌雜報ノ記事ヨリ起リ或ハ公然演說ヲ爲シタル犯者ニシテ刑法ノ條目ニ從テ處斷シタル者ヲ記入ス
- 一所犯新法頒布以前ニ在テ新舊ノ法ヲ比照シ舊法ニ從テ處斷シタル者ハ本表記載ノ例ニ倣ヒ記入ス可シ
- 一數罪俱發シ一ノ重キヲ以テ論シ其餘罪ノ輕クシテ論セサル者モ本表記載ノ例ニ準シ一々記載ス可シ
- 一罪前ニ發シ已ニ判決ヲ經テ餘罪後ニ發シ其輕ク若クハ等シクシテ論セス或ハ重クシテ更論シタル者ハ各々本表刑名ノ區畫中ニ記載シタル例ニ倣ヒ記入ス可シ
- 一上告ニ係ル者ハ其上告ニ拘ハラス原裁判ノ刑名ヲ記入ス但シ大審院ノ表ハ此例ニアラス一公然ノ演說上ヨリ起リ刑法ノ條目ニ從テ處斷シタル者ハ本表新聞名ノ欄内へ其社名ヲ書シ若シ社名アラサル者ハ其理由ヲ記入ス可シ
- 原表輪廓曲尺縱五寸 橫三寸五分

大審院 明治何年自何月何日 集會條例新聞條例及刑法犯者表

犯罪ノ條目	裁判言渡シヲ爲シタル月日	刑名	新聞等ノ名	犯者
集會條例何條	何月何日	禁錮金何日或	社名	族籍姓名







印章雛形

極濃輕罪  
裁判所

第二百六十五 十四年十二月十四日司法省丁第三十號裁判所へ達  
裁判所印章ノ儀來明治十五年一月一日以後左ノ通改定候條各廳ニ於テ調製シ印鑑ヲ以テ可  
届出此旨相違候事

印章雛形

方曲尺壹寸五分

何々  
控訴  
裁 判 所

控 訴  
始 審  
治 安 裁 判 所 各 一 顆 ヲ 彫 刻 ス  
輕 罪  
違 警 罪

字體ハ篆書ヲ用ヒ認易キヲ要ス且文字ノ數ニ據リ或ハ「之印」等ノ字ヲ刻スルモ妨ケナシ  
第二百六十六 十五年一月三十一日司法省丁第十一號  
重罪裁判所印章左ノ雛形ノ通相定候條該裁判所開設ノ地方所在  
ニ備置候様可致此旨相違候事  
但調製ノ上ハ印鑑ヲ以テ可届出候事

印章雛形

方曲尺壹寸五分

某々  
重 罪  
裁 判 所

名稱ハ明治十四年  
第七十八號布告ニ  
據ル

印章雛形

方曲尺壹寸五分

某々  
重 罪  
裁 判 所

名稱ハ明治十四年  
第七十八號布告ニ  
據ル

字體ハ篆書ヲ用ヒ成ヘク認易キヲ要ス且地名文字ヲ數ニ依リ或ハ「之印」等ノ字ヲ刻スル  
モ妨ケナシ

印章雛形

方曲尺壹寸五分

某々  
重 罪  
裁 判 所

名稱ハ明治十四年  
第七十八號布告ニ  
據ル

第二百六十七 十六年一月十三日司法省丁第一號始審裁判所へ達  
支廳ノ印章左ノ通相定候條各廳ニ於テ調製シ印鑑ヲ以テ可届出此旨相違候事

印章雛形

方曲尺壹寸五分

某 始 審  
裁 判 所  
某 支 廳

始審裁判所支廳  
各一顆ヲ彫刻ス  
輕罪裁判所支廳

字體ハ篆書ヲ用ヒ認メ易キヲ要ス且文字ノ數ニヨリ或ハ「之印」等ノ文字ヲ刻スルモ妨ケ  
ナシ

印章雛形

方曲尺壹寸五分

某 始 審  
裁 判 所  
某 支 廳

名稱ハ明治十四年  
第七十八號布告ニ  
據ル

第二百六十八 十六年一月十三日司法省丁第二號始審裁判所治安裁判所へ達



支廳管内ニ在ル治安裁判所支廳所在ヲ除クニ於テ輕罪裁判所ヲ開クトキ用ユヘキ印章ハ明治十四年當省丁第二十七號達ノ例ニ據リ治安裁判所ニ於テ所轄支廳ノ印章ヲ調製シ押用スル儀ト心得ヘシ此旨相達候事

但調刻ノ上ハ印鑑ヲ以テ届出ツヘシ

【參照】 治罪法第廿五條

刑法令訓類聚 終  
治罪法

正誤脱漏

治罪法違警罪裁判所之部脱漏

○十六年六月十一日司法省丙第三號警視廳府縣東京府沖繩ヲ除クヘ達

明治十四年當省丙第十二號達各警察署并ニ警察分署所在名稱區畫届出方ノ儀ハ以來廢合改稱新設等有之都度右達ノ雛形ニ照準左ノ箇條ヲ明記シ可届出儀ト心得ヘシ此旨相達候事

但已ニ廢合改稱新設等有之モ未届出サル向ハ本文ニ準シ急速可届出事

一何年何月廢署或ハ何警察本分署へ合併或ハ新設或ハ改稱

一何年何月何警察署管轄某町某村ハ何警察署へ某町某村ハ何警察分署へ屬ス或ハ新設ニ係ルトキハ何警察署管内某町某村ト何警察分署管内某町トヲ管轄セシム

類別目錄正誤

十一丁第三節ノ下 (傳病染)ハ(傳染病)

本文正誤

目錄三丁 十六行 (四十四丁)ハ(六十四丁)

同 十丁 九行 (特救表)ハ(特救表)

同 十一行 (裁判)ノ下(所)ヲ脱ス

本文三十丁 二行 (裁判)ノ下(所)ハ衍

全 丁末行 (賭博犯)ハ(賭博犯)



同三十五丁 右欄外 (十二章)ハ(十一章)  
 同三十七丁 同 (第十三章)上(第十二章)ヲ脱シ(第四章)ハ(第十四章)  
 同四十八丁 九行 (時)ノ下(ハ)ヲ脱ス  
 同六十七丁 十七行 (五十七條ニ)ノ下(日)ハ衍  
 同八十三丁 十一行 (頒布)ハ(頒布)  
 同百二十丁 十四行 (下段)ハ(下度)  
 同百七十七丁 初行 (ヲ記載)ハ衍

明治十八年四月十一日版權免許

定價金八拾錢

編纂人

東京府士族

市岡正一

府下四谷區永住町  
 貳拾壹番地

出版人

兵庫縣士族

股野潛

府下芝區愛宕下町  
 三丁目壹番地寄留

賣 捌 所

東京銀坐四丁目

博聞本社

大阪備後町四丁目

全分社

千葉縣下千葉

全分社

埼玉縣下浦和

全分社

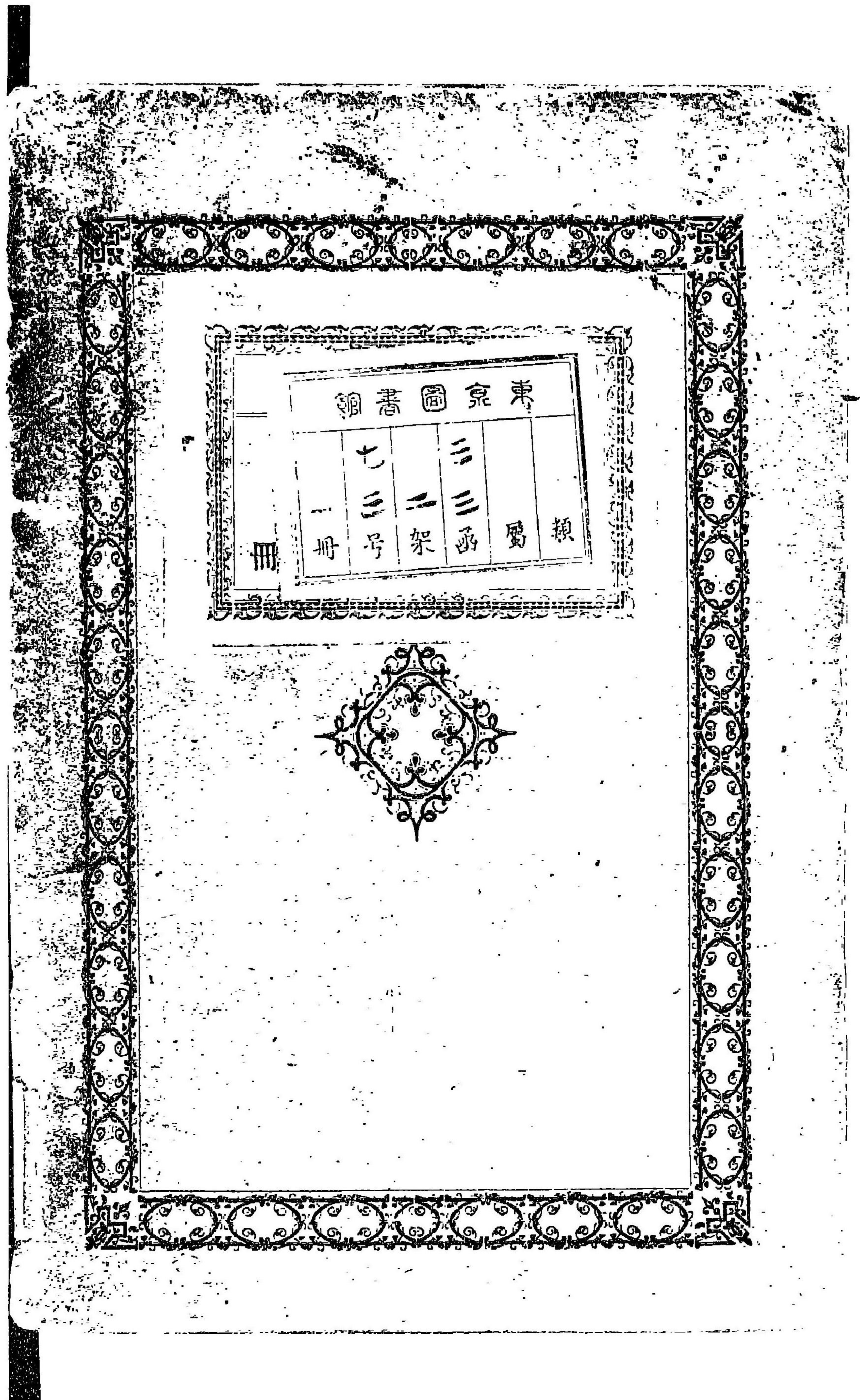






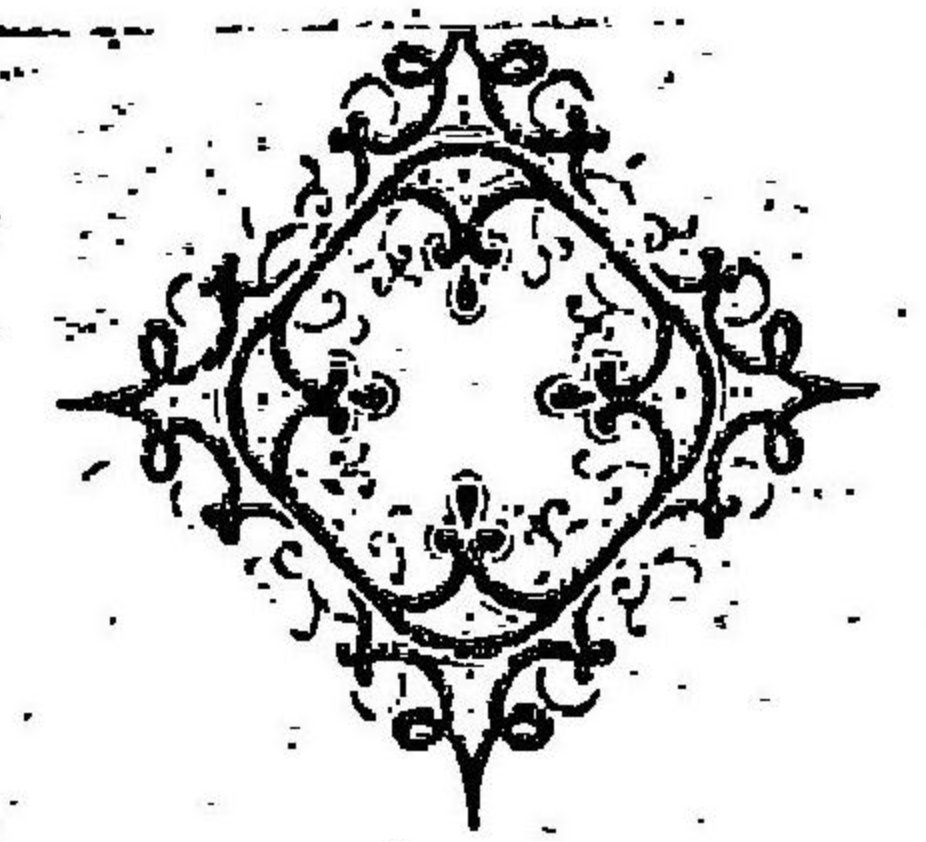
33
73



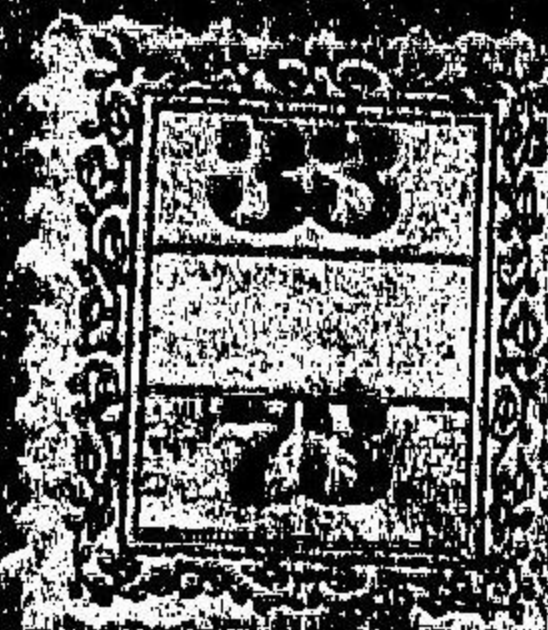


東泉圖書

冊	一	七	三	三	屬	類
	冊	號	架	函		







禁電子式複写

035882-000-9

CZ-711-012

刑法治罪法令訓類聚

市岡 正一 / 編

M18

BBP-0470

